

## 対話イン近畿大学 2017 詳細報告書

報告者 針山日出夫

### 【対話会概要】

2017年11月23日、近畿大学の「エネルギー研究会 (NEDE)」との2回目の対話会が近畿大学・東大阪キャンパスで開催された。「研究会」は理工学部の学生で組織された自主的研究サークルで、対話会並びに懇親会は研究会主導で企画・調整・進行された。学生とシニアの対話テーマは研究会からの指定により各グループ共通で「原子力信頼回復の道筋を考える」となり、活発な討論と対話が行われた。参加者総数は25名(学生：18名 先生方：2名 シニア：5名)。

### 【議事次第】

- ① 開催日時 : H29年12月2日 (土) 13時～17時40分 18時～有志懇親会
- ② 開催場所 : 近畿大学・東大阪キャンパス理工学部 (31号館 603教室)
- ③ 参加者 : (学生) エネルギー研究会学生18名  
(教職員) 渥美教授(研究会顧問)、武村准教(研究会副顧問)  
(シニア) 碓本岩男、山崎吉秀、路次安憲、三谷信次、針山日出夫
- ④ 議事概要  
13時～ 開会挨拶 (NEDE東会長) 、シニア参加者紹介  
13時05分～14時15分 講演「原子力信頼回復の道筋について」講師 SNW針山  
14時20分～17時 グループ対話 : 3グループに分かれて2時間程度対話  
統一テーマは「原子力の信頼回復の道筋について」  
17時00分～17時30分 学生からの発表 (グループ別、発表者は予め決定済み)  
17時30分～17時40分 講評 (SNW山崎) 、閉会 (渥美先生)

### 【基調講演 : 「原子力信頼回復の道筋を考える」 針山日出夫】

基調講演では世界のエネルギー動向を踏まえて日本としての選択肢を分析し、その上で、原子力に対する社会的受容性の改善を図り、原子力プログラムが円滑に推移するためにどうするかについて以下の項目に沿って説明があった。

- ① エネルギー安全保障とは?何が問われているかについて分析する
- ② 原子力と日本社会の特殊性を歴史的に見つめてみる
- ③ 東電福島事故と日本人の「反原発センチメント」を深堀する

- ④ 信頼喪失の構造的要因を洗い出し、打ち手を組み立ててみる
- ⑤ 国民が自分でエネルギーや安全性を考えるにはどうするか考える
- ⑥ 政治や事業者や業界がやらねばならないこととは何かを詰めてみる

## 【学生とシニアの対話】

参加者全員が3グループに分かれて、統一テーマに沿って対話を実施した。  
以下にグループ毎の概要報告を示す。

### ＜グループ A 概要報告 報告者：碓本岩男＞



#### 1. 対話統一テーマ

「原子力信頼回復の道筋を考える」という各グループ共通テーマとした上で、原子力信頼回復は、多くの人に正しい情報を知ってもらうことから始まるということで、Aグループでは、どんな情報を、どういう方法で、どういう人に伝えるか、というテーマに絞って意見交換を行った。

#### 2. 参加者（学生）東、小川、今中、大平、武市、原田（シニア）山崎、碓本

#### 3. 対話の流れと内容

学生全員に自己紹介をしてもらった後に、「原子力信頼回復の道筋を考える」という難しく、かつ広範囲に亘るテーマについて、どのように対話を進めるかを議論し、原子力信頼回復は、多くの人に正しい情報を知ってもらうことから始まるということで、Aグループでは、どんな情報を、どういう方法で、どういう人に伝えるか、というテーマに絞って、東 NEDE 元会長、原田現 NEDE 会長がリードしながら対話を進めた。

どんな情報を、という点については、エネルギー問題を語るための基本知識として、エネルギーの安全保障、地球環境保全、経済性という 3E の視点、1 次エネルギーの種類と特徴、原子力は欠点ばかりが強調されているが、多くの利点がある

あること、逆に、再生可能エネルギーは長所だけが強調されているが多くの欠点があること、との意見でまとまった。

どういう方法で、どういう人に、という点については、一般の人に情報提供するには、マスコミをうまく使うことであり、そのためには、学生という立場、近大（まぐろ）という知名度をうまく使い、マスコミに食い付いてもらい、マスコミの記者に正しい情報を伝えること（取材する記者の不勉強を指摘すること）、併せて、NEDE 以外の近大の学生に、エネルギー問題に興味を持ってもらうイベントを開催し、そのイベントに多く集まってもらう方法を考えること、オープンキャンパスでのブースを工夫するなど、との結論になった。

また、学生、若い人への情報提供には SNS、インスタグラムも有効であり、原子力プラントのインスタ映えする写真を使うなどして、興味をもってもらう方法も有効との結論になった。 以上

## <グループ B 概要報告 報告者：路次安憲>



1. 対話統一テーマ ; 原子力信頼回復の道筋を考える
2. 参加者  
(学生) 3年生4名(石崎、井上、第十、古川)、1年生2名(北、辻)  
(シニア) 三谷、路次
3. 実施内容  
(1) 自己紹介  
\*学生諸君の自己紹介から始め、シニアがさまざまに問いかけることによりアイスブ

レイクを図った。

## (2) 役割分担

\*ファシリテータ兼発表者(辻)、書記(議論のまとめ役)(石崎)共に学生が務めることで事前に決まっていた。

1年生のファシリテータに対して書記を務めた3年生がリードしつつ進行した。

## (3) 討議内容の絞り込み

\*共通テーマが幅広い概念であるため、サブテーマ的に絞り込むべく、主に何を議論したいか学生各位が意見表明した結果、

『人々は放射能の影響を最も気にしている(注)。放射能の人体への影響に関する正しい知識を身につけてもらうことが信頼回復につながるだろう』となった。

(注) 福島県のアンケートで、女子高校生の6割が将来正常な子供を生めるのか心配しているとの結果にショックを受けた人が多い

\*なお、その他の項目として、「政治家に原発の重要性を認識させるには(選挙の在り方)」「原発輸出に対する国の関与の在り方」があった。

## (4) 討議内容

\*討議を始める頃には座も和み、シニアからの問いかけやアドバイスなどに対しても活発な意見が出された。主な議論としては、

①中学、高校段階で放射線教育が未だに十分なされていない。理科ではコンプトン効果などの理解が入っているが、それよりも文系・理系を問わず人体への影響の基礎を学ばせる必要がある。

②大学祭で霧箱の実演を行ったが人気があって効果的。

③原爆による死者の大半は熱線によるものなのだが、放射線の影響だと思っている人が大半である(出席の学生はよく理解しているが)。

④北欧は自然放射線量5ミリシーベルト/年で健康に暮らしているのに、なぜ1ミリにこだわるのか

⑤福島産の食物が未だに風評被害に苦しんでいる。海外でブランド化を図れないか。

## (5) 対策案

\*放射能に関する知識普及に関してのエネ研としてのHPの充実、SNSの活用。

\*他大学の学生に呼びかけて広報に関する連携を図る。

\*中高生に知ってもらうために、まずは身近な近大付属中学・高校でエネ研の出前授業ができるように働きかけたい。

\*さらに政治を動かすことに関して、若者は原子力賛成が多いので若者の投票率を上げることが効果的。そのためには、①選挙方法の変革(投票所まで足を運ぶのは大変。インターネットで手軽に投票できること)、②高齢者の投票制限(例えば80歳以上は選挙権なし)、が必要との意見もあった。

以上

## <グループC 概要報告 報告者：針山日出夫>



1. 対話統一テーマ：原子力信頼回復の道筋
2. 参加者：(3年生) 小松(女性)、樋元、奥林、山本 (1年生) 神田、後藤  
(シニア) 針山
3. 対話の流れ：  
1年生の神田君がファシリテータ件進行役をやり、全体の対話の流れを主導し、山本君が書記役を担った。全員の自己紹介(出身、専攻、希望、趣味)の後、統一テーマに照らした論点を順次議論する形で対話が進んだ。
4. 対話の論点と学生の主な意見
  - ① 地球温暖化対策、エネルギーベストミックス
    - 日本として石炭火力をどこまで認めるかについて喧々諤々の議論あり。
    - 大量排出国が努力しないのなら、日本が頑張っても意味ないとの意見や国際的に信頼を勝ち取るべく、公約は貫徹すべきとの意見など
  - ② 原子力と日本社会の特殊性
    - 学校教育が良くない。放射線やエネルギーを教える先生が足りない。
    - 社会科で、エネルギー安全保障やリスク思考についても教えるべき。
    - 国民の信頼がないのは、政府がリーダーシップを発揮していないことが大きい。
    - 日本のメディアは物事を単純化した且つ感情的な報道姿勢が目立つ。国民を単純思考に貶めているのは、メディアの責任。
  - ③ 日本人の反原発センチメント
    - 反原発派は現実的でない。根拠のない原発代替案は無責任。
    - 原発運転は昭和45年から始まっていて、「好き、嫌い」だけの議論は

空疎で、今更投げ出せない状況であり、これからも原発と付き合うのが現実。  
以上

## <参加シニアの感想文：順不同>

### 【碓本岩男】

SNWによる近畿大学 NEDE との討論会は、今年の3月に引き続き2回目となる。前回、NEDE は、授業とは無関係に学生のプライベートの時間を使ったサークル活動であると聞いて、びっくりしたが、今回は学生のエネルギー、原子力に関する関心の高さ、興味の深さに、改めてびっくりさせられた。

グループ討論では、「原子力信頼回復の道筋」について話したが、難しいテーマかつ広範囲に亘るテーマのため、どのような内容の情報をどのような方法でどうい  
う人に伝えるかを議論した。

どの学生も、自主的にエネルギー研究会（NEDE）に参加しているだけあって、エネルギー、原子力に関する正しい知識を持ち、それを理解しており、素晴らしいと感じた。

また、懇親会にも6名の学生が2名の先生と共に参加してくれて、父親以上に歳の離れたシニアと一所懸命話をしてくれたことも、素晴らしいことであった。15年以上の歴史がある NEDE が、これからも継続、発展していくことを心から願うものである。

### 【山崎吉秀】

週末土曜日の午後、貴重な半日をかけての学生さんたちとの対話であったが、十分にその値打ちが感じ取れることであった。

針山氏から「原子力の信頼回復への道筋」をテーマに基調講演からスタート。実に内容がよく整理された資料を配布しての講演、中味が奥深いだけに、限られた時間の中で学生さん達には消化不良の部分もあったかも知れないが、我が国のエネルギー問題、とりわけ福島事故で失われた原子力の信頼、回復への手掛りを感じてもらえたと思う。

この背景のもと、A. B. C. 3グループに分かれての対話、その成果がグループごとに発表された。夫々、課題の何処かにアクセントを置いての対話とな  
って、A、Bグループでは共に、世間に理解を求めるには如何に情報発信をす  
るかに焦点を。そのためには、先ずは発信側が我が国のエネルギー問題のあり  
様をよく理解しておくこと。特に原子力では放射線や廃棄物を含めて。そして  
何処に向けて発信するか。マスコミ・メディアに、国の制度に向けて行政に、  
あるいは各人が極身近な、身の回りに人々に等々に如何なる手段でと対話は

展開。Cグループでは、エネルギー安全保障という面から、今主役を務める火力に焦点を当て、対話をスタート。安定供給や環境への問題が出てくる中、原子力の登場等歴史的流れも追った。我が国世間、その原子力では原爆被災国であることで、より一層感情的により強くこれを捉えるところがある。如何に原子力のリスクを納得できる形で情報発信するかと、対話は展開。ごく簡単に対話の成果発表を追ったが、学生の皆さんエネルギー問題研究会に所属しているだけにベースにあるエネルギー問題意識、一層深められてゆく姿に接しシニアとして大変心強く感じることであった。

### 【路次安憲】

「対話会」には久しぶりの参加であったが、学生たちがよく勉強していること、(以前参加した近大での対話会に比しても)内容が随分進歩していることに驚かされた。当初は少し硬くて口数も少なく発言者に偏りが見られたが、議論が盛り上がってきた頃からは全員が口を開くようになり、エネルギーや原子力に関してしっかりとした見識を持っていると感じた。エネルギー研究会での指導(相互学習)の成果だろうと考える。もちろん、1年生には普遍性に欠けると思われる意見もあったが、一生懸命勉強しようとの意欲が感じられて頼もしかった。

なお、討議の中で出てきた「中高生に知ってもらうために、まずは身近な近大付属中学・高校でエネ研の出前授業ができるように働きかけたい。」との結論が、発表では提示されなかったのが、身近なところから実践していくことは大切で良い考え方だと思っていたので残念だった(質疑応答の時間があればコメントしようと考えていたのだが、なかったので敢えての発言はしなかったが)。

### 【三谷信次】

グループBで路次さんと組んで対話に臨んだ。近大の中のNEDEという「エネルギーを考えるサークル(原子力だけとは限らない)」の1年、3年合わせて8名の学生達と対話した。

対話の内容は路次さんの「グループBの対話概要報告」にうまく纏められていますが、対話の中で私が強く印象に残った部分2件について懇親会での対話を含めて記述します。

(1)NEDEはSNSでHPを持っていて、それなりのことを学内中心に発信しているとのこと。できるならば、他大学の類似のサークルなどと連携してエネルギーの勉強の輪を広げていっては如何かと考えます。次の12月16日に開催される日本原子力学会若手連絡会(YGN)主催の「2017年度 原子力 学生と若手の対話 in 関西」などでの学生達との交流で、参加した大学の仲間達と継続してSNSを通して連絡が取れあい、お互い情報交換ができ、仲間の輪が広がることを期待致します。

(2)概要報告の中の統一テーマ「原子力回復の道筋を考える」の(5)対策案の最後の部分に



「\*さらに**政治を動かすこと**に関して、若者は原子力賛成が多いので若者の投票率を上げることが効果的。そのためには、①**選挙方法の変革**（投票所まで足を運ぶのは大変。インターネットで手軽に投票できること）、②**高齢者の投票制限**（例えば80歳以上は選挙権なし）、が必要との意見もあった。」とあります。個々の議論で若者の高齢者に対する不満が良く分かりました。①について「高齢者は車持ちが多いから悪天候でも投票所へ行ける。若者は昔と違って特に学生は車がない。ネット投票に何故しないのか？ネット投票にすれば若者の意見がもっと投票結果に反映されると思う。不公平だ。」②は「高齢者は車の事故の原因に認知症の疑いが挙げられていて、免許の更新に制限がある。ならば何故投票権についても、少なくとも良識の府といわれる参議院の選挙について投票権の制限を設けないのか？」というものであった。「高齢者達は現在、近未来のことだけ考えて投票する。私達若者は自分の将来と重ね合わせて、我が国の10年、20年、その先を心配して投票しているから、この前の衆議院選挙のような結果になったのだ」という。  
今回は我々シニアが若い学生達の考えを聞かされてハッと気づかされる対話会であった。

#### 【針山日出夫】

- ◆大変熱気に溢れた内容の濃い対話会が出来た。今回も顧問の先生は対話会には一切口を出さず、対話統一テーマの設定、グループ分け、会場準備印刷、懇親会など全て研究会主導で実施されたのは他大学では例を見ない。
- ◆基調講演テーマ「信頼回復の道筋」は関連事項が多岐にわたる事、日本社会独特の病理が背景にあること等を強調し「開かずの扉を開ける難行」であることを説明し十分理解してもらった。とりわけ、マスメディアの偏向体質や国民のゼロリスク志向、貧弱なエネルギーリテラシーについては理解を得た。
- ◆グループ対話は笑いや話し声が会場の隅々まで響き渡る活気に満ち満ちた雰囲気で行われ、他大学では見られない踏み込んだ議論が交わされた。(Ex: ①自分達研究会としてどのような貢献ができるかとの姿勢での議論 ②リスク思考は重要であるが、原子力に係るリスクチェーン全体評価と他電源とのライフサイクルリスクの比較並びに原発を保有しないリスク評価が必要ではないか。)

#### 【閉会挨拶：シニア山崎吉秀】

本日最後の締めくくりとして我が国のエネルギー問題の位置づけ、ここで私流にごく簡単に今一度繰り返してみたい。この度の総選挙で、安倍首相率いる自民党が圧勝した。政権与党として掲げる基本政策、経済成長、外交、防衛、社会福祉、学校教育、少子化対策等々、一層力が入ってゆくことでありましょう。極めて真つ当な方向だと思いが、何か



一つだけ欠けているものがあると思えてならない。我が国、昭和20年の大東亜戦争に敗戦、しかしその後の復興、経済成長、世界が驚愕する勢いでこれを成し遂げ、高度な文明社会・生活を享受できるようになった。工業生産を一つの大きな柱として、いわゆる工業立国として頑張り抜いて来たからである。そこにはこれを支える盤石のエネルギー基盤があつてこそであった。小さな島国で、資源の乏しい我が国、この構図は当分変わることは無いであろう。エネルギー基盤を確りと堅持しなければならないが、このエネルギー問題、目先を見ても、長い目で将来を見据えても難しい課題が立ちはだかっている。エネルギー供給手段に求められる必須条件、安定供給性・経済合理性・環境特性に照らしながら、最適の選択を常に迫られる。だからこそ、政治は白日のもと、確かな議論も通じ国民理解も得たうえで、エネルギー戦略を立てていてこそ、先ほどの政策展開もできるというもの。エネルギー問題を議論すれば、必ずそこに原子力が出てくる。これが選挙の足を引っ張ると慮ってか、避けて通っているように思えて仕方がない。これこそ主客転倒というべきではないか。

ともあれ、皆さんこのような状況下にあつて、エネルギー問題の研究に勤しみ、この度もこうしてその認識を一層深めようとされている姿に改めて敬意を表すると共に、自信と誇りを持って頑張り抜いてほしい。そして、これからの我が国、若い皆さん方が支え、切り開いてゆかなければならない。そのことをお願いし、祈念し、又今回のような会を設営して下さった、先生方を始め関係の皆さんに感謝申し上げます。 以上